

4月1日付けで組織改編と人事異動を実施。

2019年度は都市像に「ひと・まちが輝く未来創造・港湾都市MAIZURU」を掲げる「第7次舞鶴市総合計画」がスタートしました。次代を担う子どもたちに夢と希望をお年寄りには感謝を「を基本理念とし、市民と行政が、ともに未来に向けた「ひとづくり」「まちづくり」に取り組む「未来を拓くまち」を目指します。

■副市長に堤茂氏

副市長堤茂氏の任期満了に伴い、堤茂氏を、議会の同意を得て副市長に任命。豊富な行政経験、卓越した行政手腕のもと、山口寛副市長とともに、全職員が一丸となり、今後の市政運営に取り組む。

■人事異動

【部長】

▽政策推進部長(東京事務所長兼産業振興部長)有吉史顕▽総務部長(環境対策室長)平野広道▽市民文化環境部長(政策推進部長)西嶋久勝▽教育委員会指導理事(白糸中学校長)秋原宋人▽上下水道部長(上下水道部経営企画課長)池田秀男▽東京事務所長兼産業振興部次長(産業振興部農林課長)桑垣義亮▽資産マネジメント推進室長(総務部税務課長)野口和英▽環境対策室長(建設部建設総務課長)井田和志▽兼スポーツ振興課長(地域づくり・文化スポーツ室長)岸本淳子▽子ども総合対策室長兼幼稚園・保育所課長兼乳幼児教育センター所長(健康・子ども部次長兼幼稚園・保育所課長)田中昭▽国・府事業推進室長(国・府事業推進室)府事業推進課長(岸本浩▽上下水道部次長(経営効率化・広域連携推進担当)兼経営企画課長(再任用)(上下水道部長)小島善明▽上下水道部次長兼水道整備課長(上下水道部水道整備課長)新合哲也

▲市ホームページには課長級も掲載

■組織改編など

◆舞鶴版 Society5.0 推進本部の新設

先端技術(AIやIoT)を活用して、人と人とのつながりや助け合い、互いを思いやる共助の仕組みを創出し、地域課題の解決を図る未来型のスマートなまち「便利な田舎暮らしができるまち」を目指す。

◆京都舞鶴港エネルギー事業推進担当課長の新設

木質バイオマス発電など再生可能エネルギーを活用した取り組み、LNG基地の誘致、メタンハイドレートの利用など、京都舞鶴港の「エネルギー事業拠点化」の施策を総合的に進める。

◆子ども総合対策室の新設

子育て環境日本一を目指すため、子どもの豊かな育ちを支える環境づくり「親と子が安心して健やかに過ごすことができる環境づくり」など、豊かな育ちに関する多様な取り組みを、総合的かつ効果的に推進する。

◆乳幼児教育センターと舞鶴子ども園の新設  
乳幼児の一貫した育ちと学びを支援するため、舞鶴幼稚園と西乳児保育所を集約し、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ幼児連立型認定こども園「舞鶴こども園」を開設するとともに、乳幼児教育の質の向上を図る拠点施設として同園に「乳幼児教育センター」を併設。

◆生きる力を育み夢をかなえる教育推進本部の新設  
教育振興大綱や乳幼児教育ビジョンに掲げる基本理念「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を実現し、子どもの豊かな育ちの連続性を確かなものとするため、市長部局と教育委員会が一体となった組織として設置。

◆男女共同参画担当課長の新設  
男女が互いの人権を尊重しながら、平等に参画し、個性に応じて能力が発揮できる社会を推進するため、女性の社会参画促進とワーク・ライフ・バランスの推進に関するさまざまな事業を総合的かつ効果的に行う。

◆国土交通省近畿地方整備局職員の配置  
国と強固な連携のもと、日本海側拠点港である京都舞鶴港の機能向上を図るため、平成29年度から、国土交通省近畿地方整備局職員を任用しており、20

◆消防団担当課長の新設  
地域防災に消防団が果たす役割は大きいですが、人口減少、少子高齢化などで、消防団員の確保が課題となっている。これら状況を踏まえ、地域の守りの要である消防団の更なる充実と強化を図る。

◆公民館担当課長の新設  
公民館では、市民とともに、地域が抱える課題の解決にあたるとともに、地域に誇りと愛着が持てる事業や講座など学びの場を提供しており、この取り組みをさらに進め、地域づくりを担う人材の育成を図る。

◆7月豪雨被災地呉市へ職員派遣  
7月豪雨で甚大な被害を受けた呉市に対し、旧軍港四市(舞鶴市、横須賀市、呉市、佐世保市)締結の災害時における旧軍港市相互応援に関する協定に基づき、平成30年10月から、土木技術職員を派遣しており、2019年度も継続して派遣する。

◆女性の係長・管理職の割合増加  
異動の規模は職員810人中276人。平成30年度の退職者は40人、2019年度の採用者は21人。職員総数は829人から810人へ、19人の減。女性職員の割合は39.2%、係長に女性が占める割合は35.2%、管理職に女性が占める割合は16.9% (いずれも病院と消防を除く)。

◆改革推進課の新設

これまでの行財政改革の歩みを確かなものとし、持続発展可能なまちづくりの基盤を整えるため、新たに市長公室に改革推進課を設置し、公共施設のあり方、事業運営の見直し、組織運営の効率化など、多岐にわたる改革案件に、スピード感をもって取り組む。

◆19年度においてもみなと振興・国際交流課へ配置。  
◆京都府北部地域連携都市圏福知山市との人事交流  
京都府北部地域連携都市圏ビジョンを推進し、連携推進を更に深化させるため、平成30年度の京丹後市との人事交流に続き、2019年度は福知山市と人事交流を実施し、京都府北部5市2町のさらなる情報の共有と事業の推進に取り組む。

みなとに吹く新たな浜風

みなと振興・国際交流課に国土交通省近畿地方整備局職員の大總学さんと福知山市職員の足立訓章さんを迎えます。舞鶴港に吹く新たな風として、国との強固な連携のもと日本海側拠点港である京都舞鶴港の機能強化を目指します。また、昨年京丹後市と実施した北部5市2町の人事交流を福知山市と行うことで大河ドラマ「麒麟がくる」に向け連携した観光誘客などに取り組めます。

インタビュー 国交省⇄舞鶴 Interview



舞鶴市産業振興部 産業創造室  
みなと振興・国際交流課  
おおふさ 大總学 さん

「麒麟がくる」で自治体連携

みなと振興・国際交流課で港を生かした産業振興に関する業務に携わらせていただくことになりました。港をきっかけに古くから培われたグローバルな視点・センスを学ばせていただきながら、国内外から来られるお客様に対し北近畿の魅力を伝えられるよう頑張りたいと思っています。また、大河ドラマ「麒麟がくる」決定に伴い府北部地域が活気づくなか、自治体の枠を越えそれぞれの強みや特徴を生かし、連携した観光誘客を推進するためにも、さまざまな方とつながりをつくりながら職務に励んでいきたいと思っています。

国際港湾都市「舞鶴」に貢献したい

4月1日からみなと振興・国際交流課で港湾整備や港湾に関する計画を担当しています。近年、京都舞鶴港は取扱貨物量の増加や国際クルーズ客船が多く寄港するなど、非常に活気があふれた港になっています。市の皆さんと力を合わせて、引き続き、京都舞鶴港の機能強化や利用促進に努め、国際港湾都市舞鶴の発展に貢献したいと思えます。また、舞鶴市勤務は初めてになりますが、豊かな自然や歴史などに囲まれた街と感じています。一市民としても舞鶴市の魅力を学び、広めていきたいです。

インタビュー 福知山⇄舞鶴 Interview



舞鶴市産業振興部 産業創造室  
みなと振興・国際交流課  
あだち くにあき 足立訓章 さん